

## 外国語部会

安野 寿美

### 学ぶ楽しさ、教える楽しさを忘れない

外国語部会は、この夏に開かれる予定だったオリンピック・パラリンピックによって、これまで大きな影響を受けてきました。

2クラス3展開の少人数習熟度別授業、小学校英語の教科化、「英語の授業は英語で教える」、大学入試民間テストの導入（今年度延期）、そしてこのコロナ禍の中でオン・ライン授業や休校中の課題準備、都立高校入試の2021年からスピーキング・テスト実施（現在の中学2年生に実施予定）など、目まぐるしく出される課題に対応していくのに精一杯の日々です。

その現場で、外国語部会は学ぶ楽しさ、教える楽しさを見いだしていく実践をみんなで分かち合っています。

2019年4月は、大きな制約を受けている少人数習熟度別授業のなかで、

「チョットだけオリジナル」な実践の可能性を、動画や三色ペン・ホワイトボードで、できる例を紹介され、「ヨレヨレで都会に来た」という参加者を元気づけました。

5月は、「翻訳アプリがあれば英語学習は不要か」などの問題を扱った高校の実践、「自己表現を通じて学び合う関係性を創る」中学の実践で、若い世代が直面している教室の中の問題を学びました。

9月は、三人のレポーターに「定期テスト問題と日頃の授業を考えると」というテーマで、何を学力と考えて具体的にどのような手立てで授業をしているかを紹介してもらい、講師と共に日頃の授業の組み立て方を再考しました。3年間で都立入試に耐えうる学力を育てる授業を計画している仲間励まされました。

11月は、公開講座として「小学校英語

の授業づくり」を三人のレポーターから学びました。子どもに気づかせる、ということを大切にしている小学校の実践は中学校から見ると「ものすごくインプットが多い」（参加者感想）もので、中学側からも「小学校の外国語活動を改めてよく勉強しなければ！」という感想が聞かれました。

1月の三軒茶屋小学校で開かれた東京教研集会では今年も「ミニレポート大会」を企画し、日本のレポートがありました。その後の教育事情の交流では、少人数習熟度別授業になってからの教師の授業力の低下や生徒の学びの質の低下など、問題点が出されました。

2019年度は、台風やコロナウイルスの感染防止により、多くの集会在キャンセルとなっていました。オン・ライン会議の企画やメールによる教材交換、各校で出される休校中の課題も活発にやり取りされています。転んでもただでは起きぬ精神で外国語部会はサーバイブして（生き残って）います。

（江戸川・篠崎二中）